

■インタビュー 代表取締役社長 小川潔 様

Q1. 会社の創業のきっかけやこれまでの歩みについて教えてください。

最初は大阪市の方で創業しまして、当初は建築用のナット、ボルト、ナットの6角のナットを製造していました、工場の場所がちょうど阪神高速の工事とぶつかりましたので、ここの和歌山県橋本市のほうへ移転してきました。その後、同じ加工技術を活かして自動車部品の分野に参入しまして、現在の売上比率は、建築は3割、自動車部品が7割となっております。

Q2. 小川工業株式会社の主な事業内容や経営理念についてお聞かせください。

まず、経営理念ですけれども、キラリと輝こうということで何で輝くかというと、技術力ですね。それもキラキラとかキラキラでまぶしいくらいということじゃなくて、キラリでいいということで、日本に何100万社も会社があると言われていますけれども、その中で少しでも頭をちょっと飛び出しているっていうことで、何か輝いている会社があるなというふうに見られる 実際にですよね、特定の技術分野においては、和歌山県の小川工業という技術力のある会社があるぞということで評価をいただいております。それから、中小企業のいいところを生かして活性化しようということや、人材育成に力を入れて、やりがいのある職場を実現しようということを掲げています

Q3. 自動車部品の製造においてのこだわりや、差別化の工夫・強い強みについて教えてください。

まず、品質は最重要項目として、特に弊社で不具合があった場合に、人命にかかわるような大きい問題になるという、重要保安部品という部品をたくさん製造しています。お客様に信頼していただけるような、ものづくりを追求しています。それから、技術開発は他社がやっていない、弊社独自の工法を開発して、他社が真似のできないオンリーワン技術として差別化しています。

Q4. 最新の技術や設備の導入について、どのような工夫をされていますか。

はい 新しい設備の導入、ものによってはですね、数億円するような機械もあるわけですけども、ただ、機械だけでは他社と差別化できませんので、金型の技術が非常に重要になります。金型設計については、高度な高難易度のものでも、短納期で設計できるようなコンピュータのシミュレーションとか、データ解析のためのセンシングとかDXも投資をしています。また、人不足の中では自動化の技術についても重要なになっておりまして、外部の業者にも依頼しますけども、社内製で自動化のための設計とか社内制作も行っております。

Q5. 社員の皆さんのが働きやすい職場づくりのために、心がけていることはありますか。

はい 人材育成や人事評価の仕組みづくりに、重点を置いています。従業員の皆さんのが、将来のキャリアパスを思い描いて、成長を感じられるような人材育成、それから上司との面談では、スキルアップしたり、仕事の中でできた成果をちゃんと評価をして、次はどこに向かえばいいかというようなことを、お互いに納得できるまで話し合って、進められるような仕組みづくりを、常にブラッシュアップしていくような、取り組みをしております。

Q6. 素晴らしい庭園や神殿を見せていただきましたが、こちらについてエピソードを教えてください。

大阪からこちらの場所へ移転してきまして、最初は当然工場をまず作るわけですけれども、その次に第2工場を作るより先にですね、こういった庭園とか神殿とか、もう今使っていませんけれども、プールとかも当時作りまして、そういうものの工場を作るよりたくさんお金がかかったんですけども、そういうこと福利厚生に力を入れていこうということに、重点を置いていました。それは今も変わらずに取り組んでいまして、今でもトレーニングルームを作ったり、2年前には従業員の皆さんに調理したものを、お昼ご飯に温かいまま食べてほしいなということで、食堂に調理の設備を導入するようなこともあります。

Q7. 会社を経営する中で、苦労されたことや大変だったこと、それをどう乗り越えたかを教えてください。

はい 技術開発は世界でどこでもやっていないようなことを、初めて挑戦するようなこともたくさん取り組んでおりますので、量産に入っても金型が割れてしまって、製品がなかなか加工できないようなこともあります。費用もたくさんかかるし、従業員総出で選別したり、手直ししたりして出荷するようなこともあります。生産技術部が技術開発の中心となって取り組みますけども、会社全体ですね、全員で一丸となって取り組むことで、本当の技術開発ができると考えています。

Q8. 今後の会社の目標や、チャレンジしていきたいことは何ですか。

はい、既存の事業についても拡大していきますけれども、これまでも社長たちも1代社長1代で一つの大きな事業を立ち上げるということを、使命として取り組んできまして、そのことによって会社が成長して発展してきました。私も同様に新規の事業に取り組んで技術開発も進めていますし、新しいといった色を積み重ねることで、会社をさらに発展させたいと考えています。

Q9. どんな人材に入社してほしいとお考えですか。また、学生へのメッセージをお願いします。

はい まずやる気のある方に、入社してもらいたいと考えています。皆さん素晴らしい能力をたくさん持っていると思います。けれども、その能力をいかに引き出すかということが、会社の重要な役目と考えていて、それに応えて能力を伸ばすかどうかというのは、この入ってこられる皆さんのがやる気次第だと思います。

中小企業では、大企業に比べて一人で広範囲に、多くのことを担当することがよくあるんですけれども、どんなことでも積極的に取り組むことが重要になります。逆に若い頃から多くのことを、責任を持って経験をして成長することができますし、そういうことにチャレンジするかどうかということ、皆さんのやる気次第で将来が大きく変わるとと思います。

Q10. 社長ご自身が、学生時代に大切にしていたことや、今の学生にお勧めしたい経験はありますか。

私は 学生時代に IT のプログラムとか情報技術について興味を持って取り組んでいました、今の会社とは直接関係ないんですけども、そういうことが好きで勉強して、1 社目の会社も、ここでは今の会社と関係ない IT 系の会社に就職して、プログラマーとか SE みたいなことを、やっていたんですけども、その後、今の会社に入って分野が違いますけども、そういった若い頃に、いろいろ取り組んだこととか、勉強したことというのは無駄にはならずですね、直接ではないけども、考え方とか進み方というのは必ず役に立つので、皆さんも自分が興味のあることを突き詰めて、夢中になって取り組んでもらえたらと思います。

Q11. キャッチフレーズで「次代のニーズをカタチに」とありますが、「多様なニーズに即応する的確な目」と「技術力」を養うことは、具体的にはどのような人材を育成していくのでしょうか。

弊社は技術開発型の企業ですのでですが、どのテーマに取り組むかというのは、非常に難しいところで、その目標、目的さえ決まればあとは早いわけですけれども、そのどのテーマを選ぶかということについては、いろいろなお客様だったり、アンテナを高く張り巡らして情報を取ってきて、その中からいくつもチャレンジをしていてですね、一番マッチングするものについてテーマ選定をしております。また、技術力の人材育成という点では、技術的な基礎知識も必要で、そういうことも勉強するわけですけれども、あとは製造現場で実際に手で触れて、五感をフル活用して体験をしていくということが一番もとにあると思います。

Q12. 橋本市などの地元地域への貢献活動について教えてください。

商工会議所でのいろいろなイベントに従業員みんなで多人数で参加したり、あとは、地元の水路の清掃活動を、みんなで一緒にやったり、あとは、公民館の花壇の植え込みの手伝いをやったり、そういうことが、地元地域と一緒にやっています。

小川さま 本日はいろいろ教えていただきありがとうございました。